

ハイブリッド開催

日時 2021年 **12月18日(土)** 18:15~19:15 **LIVE配信**

会場 御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター **第1**会場(sola city Hall EAST)

座長 **鈴木 利根 先生** ひかり眼科院長 / 獨協医科大学特任教授

演者 **木村 亜紀子 先生** 兵庫医科大学 眼科学教室 准教授

眼科医にとっての重症筋無力症 —これまでとこれから

重症筋無力症 (Myasthenia Gravis: MG) は、患者が眼科を初診するにも関わらず、そして、学生時代から必ず学ぶ疾患でありながら、今なお眼科医に敬遠されがちな疾患である。眼瞼下垂あるいは複視で発症し、全身症状があれば必ず神経内科医が厳重な管理を行ってくれる。最も懸念されることは、抗アセチルコリン受容体抗体が陰性、抗筋特異的チロシンキナーゼ (MuSK) 抗体が陰性の double seronegative ocular MG が何科で適切な医療を受けられるか、ということである。眼科医にとって、瞼下垂や歩行障害をきたす可能性がある疾患に関わることは、得手不得手からいうとやはり苦手である。しかし、眼筋型の段階で適切な医療を受けられるかどうかは、患者にとっては生涯の QOL を左右する極めて重要な事項である。少なくとも眼科医が眼筋型 MG を診断し、脳神経内科の協力を得て、治療を行ってもらえる環境を整える努力はすべきである。我々の施設では、脳神経内科、小児科と協力の下 MG の治療に当たっているが、眼筋型 MG は主に眼科で加療を行っている。Trial and error から得られた経験を紹介したい。

第59回日本神経眼科学会総会への参加には、参加登録が必要です。
11月15日(月)まで、早期割引を実施しております。

